

1 1	海部	あま市立甚目寺南小学校	ヨコイ ユカコ 名前 横 井 友 佳 子
分科会番号	1 0	分科会名	家庭科教育

研究題目 豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育
—「持続可能な社会へ 物やお金の使い方」の実践を通して—

研究要項

1 研究のねらい

本学級の児童は、学習に前向きに取り組み、家庭科の学習を楽しみにしている。学級はのびのびとして活気があり、対話的な学習活動の場では意欲的に交流する姿が見られる。しかし、児童の考えに「どうしてそう思ったの」と問い返すと「なんとなく」「そんな気がする」「テレビで言っていたから」と答えることが多いことから、生活の営みに関わる見方や考え方を働かせたり、科学的な根拠をもって考えたりすることができていない様子がうかがえた。また、5年生家庭科の初めの題材である「私の生活、大発見」で家庭での様子を振り返らせたところ、包丁やアイロンを使ったことがない児童や「計量カップ・急須・茶托」などの調理用具の名前を知らない児童も多くおり、基本的な知識及び技能を身に付けさせる必要があると感じた。

現行の学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められている。この点について、国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官の熊谷有紀子氏は、『初等教育資料』（2026）において、学習指導要領実施状況調査から、児童が主体となって課題を設定するためには、自分の生活を見つめて問題を見だし、その問題を自分事として解決すべき課題の設定へとつなげられることが重要であると述べている。加えて、事実的な知識の習得に加え、学習内容の本質を深く理解するための概念的理解に課題があることも指摘している。

本研究では、学習課題を設定する場面を重視し、課題を解決する必要感が生まれるような手だてを講じることで、日常の中から課題を見だし、自分事として課題を解決したいという願いをもたせたい。また、「対話的な学び」とは「子ども同士の協働（中略）等を通じ、自己の考えを広げ深める」こととされている。そこで、友達との対話の場面を組み込んだ題材構想をし、教員が教え込むのではなく、なぜそうするのかを考える時間を確保し、児童同士で意見交換する場面を大切にす。そして、自分なりの根拠をもって課題を解決したり、他者の価値観に触れ、改めて自分の選択を見つめ直したりしながら、科学的根拠や生活背景などを理解することで、概念的な知識及び技能の習得にもつなげていきたい。さらに、振り返りの場面では、児童が考えたり、学び合ったりした過程や学習課題を解決できたことを認め、児童自身が自分の成長に改めて気付くことで、自己有用感を感じられるようにして自信につなげ、家庭科で学んだことを生かして家庭の中での役割を担おうという豊かな心と実践力を育みたい。

2 めざす児童像

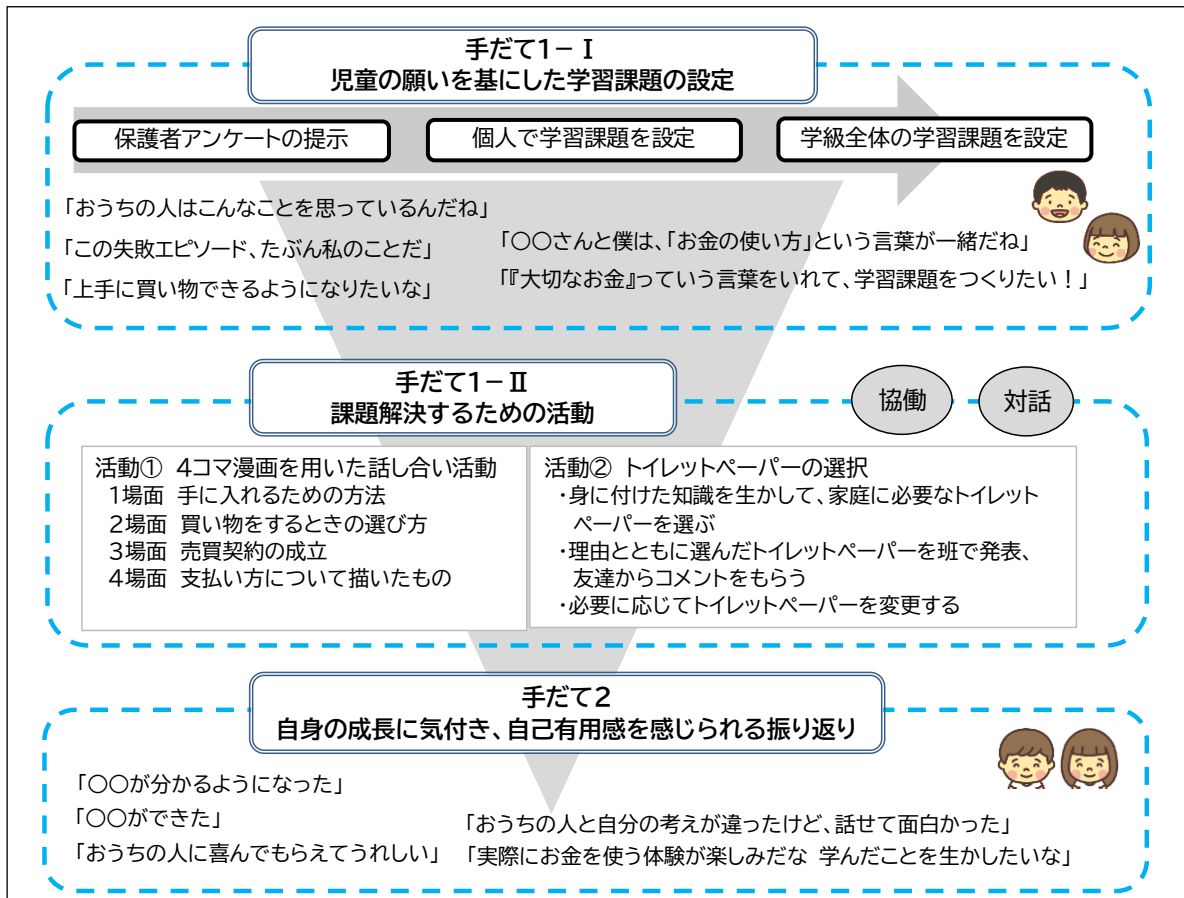
よりよい家庭生活に向けて、身に付けた知識及び技能を実践しようとする児童

3 研究の仮説

消費生活について学習する過程で、児童の願いを基に学習課題を設定し、課題を解決するために対話を軸とした多様な価値観に触れる協働的な活動を行えば、知識及び技能を身に付けようと主体的に学ぶであろう。また、自身の成長に気付く、自己有用感を感じられるような振り返りをすれば、消費者としての自覚を高め、金銭の大切さに気付く、計画的に使うという態度につながるであろう。

4 研究の方法

- (1) 対象学年 小学校5年生 児童24名
- (2) 指導内容 消費生活・環境「持続可能な社会へ 物やお金の使い方」(6時間完了)
- (3) 手だて



(4) 検証方法

- ・ 手だて1について
アンケートの実施と抽出児童の観察から、知識及び技能を身に付けようと主体的に学習に取り組んでいるかを考察する。
- ・ 手だて2について
アンケートの実施や家庭科ノートの記述、抽出児童の観察から、家庭生活をよりよくしようとしているかを考察する。

(5) 抽出児童の特徴と、教師の願い

抽出児A 授業には意欲的に参加するが、文章を書くことが苦手である。否定的な発言が多い。家庭での役割が決まっておらず、手伝いの経験が少ない。
<教師の願い> 自己有用感を感じ、自信をもって前向きに取り組んでほしい。家庭生活をよりよくしようという思いをもってほしい。

抽出児B 定期実施している生活アンケートにおいて、「学校はあまり楽しくない」「友達があまりいない」「授業が分からない」と回答した。発言は少ないが、自分なりにノートにまとめる様子があり、真面目に取り組むことができる。
<教師の願い> 対話的な活動を通し、友達と一緒に取り組む楽しさを感じてほしい。知識及び技能を身に付け、活用する経験を積んでほしい。

5 研究の実際

(1) 手だて1-I 児童の願いを基にした学習課題の設定

学習に入る前に5年生の全家庭の保護者へアンケートを依頼した。アンケートの期間に地域の祭りが行われた休日を含めたことで、「子どもの買い物や小遣いの使い方の失敗エピソード」の項目には、祭りでの具体的な失敗談が多く寄せられた。第1時の授業では、保護者アンケートで

得られた回答(資料1)を参考に、自分たちの消費行動の問題点を話し合い、学習課題(学習後の自分の姿・なりたい自分)を、個人から学級全体へと設定した。保護者アンケートの結果には児童の日常の経験と重なる内容が多く、児童は自分事としてお金の使い方を振り返り、問題点について話し合うことができた。また、アンケートの「どんなお金の使い方ができるようになってほしいか」の項目から「友達に流されず自分の意思で選んでほしい」「稼ぐことの大変さを理解した上で感謝の気持ちをもって買い物してほしい」「欲しいもののためにお金を貯めて、ようやく手に入れる喜びを経験してほしい」といった保護者の思いに触れ、学習に対する必要感や切実感をもつ様子が見られた。A児は「お金を大切に使えるようになろう」と学習課題を立てたが「どうせできない」とつぶやいていた。B児は「お金は簡単に入ってくるものじゃないと改めて実感しました」と発言し、学習課題を設定した。個人で立てた学習課題(表1)を見ると「お金(物)の大切さ・計画的・むだづかい」といった言葉が多く見られた。このことは、小学校学習指導要領解説家庭編の第2章第3節「C消費生活」の(1)「ア(ア) 買い物の仕組みや消費者の役割が分かり、物や金銭の大切さと計画的な使い方について理解すること」とほぼ一致している。「ア(イ) 身近な物の選び方、買い方を理解し、購入するために必要な情報の収集・整理が適切にできること」については「必要かどうか・価値」という言葉を用いている児童が3割程度。「環境」の指導事項の知識及び技能である(2)「ア 自分の生活と身近な環境との関わりや環境に配慮した物の使い方などについて理解すること」に関する視点は出ていない。そのため、第2時以降の授業では、買い物をする際の情報収集や比較、環境への配慮についての学習を意図的に取り入れる必要があると考えた。学級全体の学習課題は「お金の価値を知り、計画的にお金を大切に使う」となった。学級全体の課題を設けたことで、個々の課題が共通の目標に結び付いた。学習課題は第2時以降も授業の開始時に確認するとともに学級内に掲示し、意識して学習を進められるようにした。

【資料1 保護者アンケートの結果】

お子様の買い物(お小遣いの使い方)の失敗エピソードを教えてください

遊びに行く時に足りないといけなそうと思ひ少し多めに現金を持てたら、無理に全部つかってしまおうと不要なものを買って来た。

イオンへお友達と出かけて、1日に3,000円(お昼代含め)も使ってしまった。3,000円がどのくらい大きい金額というのが分かってないのかもしれない。

子供たちだけで秋祭りに行きました。少し多めに現金を持てたところ、全額使ってしまった。子供のなかで現金を余らせるという考えはなかったようです。あればあるだけ使うようです…

お子様に、どんな「お金の使い方」ができるようになってほしいですか？

- ・ 計画的にお金を使えるようになってほしい。
- ・ 今後の事を見据えた使い方をしてほしい。
- ・ 手元にある金額を、1回使わずに計画立てて使えるようになってほしいです。
- ・ 計画的に貯めて、よく考えて、必要なときに使うことを身に付けてほしい。
- ・ お小遣いの範囲で、今日は(今回は)〇〇円までなら使えと上限を決めて使う。ただし、欲しいものがなければ、使わないという判断もできてほしい。
- ・ お金の価値、大切さをわかった上で使ってほしい。
- ・ お金の価値を分かってもらいたい。無駄遣いなく必要な物を必要な数だけ、大事に使ってくれるようになってほしい。
- ・ お金の大事さを知って、買いたいものはなんでも買うのではなく本当に必要かとか今後使うかなどキチンと自分で考えて使えるようになってもらいたい。
- ・ お金は湧いてくるものではないので、稼ぐことの大変さを知りつつ、本当に必要なものを選んでつかえるようになってほしい。
- ・ 相場(いくらくらいか/物の平均的な値段のこと)を知って使ってほしい。
- ・ 本心に自分が必要なか、お金の価値と合っているのかを考えて使うようになってほしい。
- ・ 欲しいから、友達がいるから一緒に、というような買い物をしてしまわないように、本当に必要か代用できる物はないか、ちゃんとお金の大切さを理解した上で使えるようになってほしいです。
- ・ 本心に今必要かを考えながら買い物をし、持っているお金でやりくりできるように使ってほしい。
- ・ よく考えて大切に使えるようになって欲しい。お金を払うからと勝手に、感謝して買い物できる子になってほしい。
- ・ 貯めるだけではなく、欲しいもののために現金を貯めてようやく買ったという喜びを得てほしい。
- ・ 人に左右される事なく自分の意思で考えて使えれるようになれば良いかと思ひます。今のうちにいっぱい失敗して覚えていってくれたら良いです。

【表1 児童が立てた学習課題一覧】

お金の使い方(むだづかい、必要な物だけ、必要ではないもの、大切さ)を考えて学ぼう
お金の価値や家の人の努力を知りながら、むだづかいのしない計画を立てよう
お金の大切さを知ろう
計画的にお金をつかう
お金の使い方を上手になろう
お金を使うとき、対費用と、対価を考える お金の大切さ、むだづかいとは何かを知る
お金の価値を知り、計画的に、お金を大切に使う
お金を計画的に使えるようになる
計画的にむだづかいなくお金を使う
お金を大切に使えるようになる
← A児
お金を使うときに本当に必要か考え、むだづかいのない買い物をできるようになる
物の価値や大切さを知ろう
本心に自分に必要な物かを考えて、お金の使い方の計画を立てる
お金をむだづかいしないようにする
計画的にお金を使え、必要かどうか考えられるようになる
むだに買わず、お金の大切さをさらに知る
お金を全部使わないで、残したり、次の時に使ったり、ためたりする
心によゆうをもって、計画的に使う
お金の大切さを知り、お金のかんたんにもらえるものじゃないとちゃんと知る
お金の使い方を知って、よりよい使い方を
↑ B児
お金の大切さを知って、計画的につかう
お金を計画的に大切に使えるようになる
お金の価値を知りつくす
自分の意思で行動できるようになる

(2) 手だて1－Ⅱ 課題解決するための活動

① 買い物の仕組み、消費者の役割、物や金銭の大切さと計画的な使い方

物の選び方や買い方を理解し、購入するために必要な情報の収集・

整理が適切にできるようになるために、4コマ漫画(資料2・キャンプのために綿の長袖シャツを用意する)を用いて話し合い活動を行った。児童に資料を配付するとすぐに「綿100%の服って意外と持っていないで、用意するの大変だったなあ」「お下がりで十分だよ。火の粉が飛んだみたいで、服が焦げていたよ」と、野外活動の経験を思い出して自分事として考える様子や「ガクペイってスマホ決済のこと？」などつぶやき、関心をもった様子が見られた。各場面について気付いたことを班で話し合うと、1コマ目では、綿100%の服を手に入れるための方法として「譲ってもらう(お下がり)」「手持ちの服を再点検する」など、新品を買う以外の方法があることに気付くことができた。2コマ目では「リボンがキャンプには不向き」「汚れやすい活動のための服だから安いものもいい」「親とも相談した方がいいのではないかな」など、選び方について目的や用途の視点からの意見が多く出た。そこで「キャンプは写真が残るから、気に入った服がよい」「好きな服を着ると気持ちが上がる。汚さないように大事に着るのではないかな」という意見を紹介すると「値段が安いからと妥協して買ったら結局キャンプのときにしか着なくて逆にもったいない。それこそお金のむだづかい」という意見が出た。第1時で設定した個人の学習課題にも「むだづかい」という言葉が何度も出たことから、むだづかいとは何かを学級全体で考えた。金額の高いものを買うことをむだづかいと捉えていた児童が多くいたが、話し合いの後には「必要に応じた物を選んでいるか」「愛着をもって使えるか」「使い切れるか」「使用回数」など、物の使い方の視点を含めて考えることができるようになった。3・4コマ目は、支払い方法について「金額が高いのに自分一人でもっていいのかな」「小学生がスマホでコード決済をして大丈夫かな」といった疑問が多く出た。3コマ目で売買契約が成立すること、商品を受け取った後は購入者の一方的な理由で返品ができないことは、教科書を用いて確認した。他にどんな支払い方法があるかを聞くと、クレジットカード、交通系ICカード、プリペイドカード、図書券など、さまざまな支払い方法が挙がった。A児を含む多くの児童から「現金が安心」という意見が出る一方、B児は「現金は落としてしまったら持ち主が分からないけれど、スマホは画面を開くのに認証が必要だから、セキュリティーの面では安心だと思う」と発言した。「クレジットカードやコード決済はポイントが付くから現金で買うよりもお得になる」という意見も出た。それぞれの支払い方法の仕組みや特徴について確認し、いずれの方法も現金と同じ価値があり、大切に使う必要があることを確認した。「お店の人に失礼のない態度で買い物をしているところがよい」と発表する児童もあり、第1時の保護者の思い(資料1)を意識し、丁寧な言葉遣いや態度で買い物をすることによさを見いだしている児童もいた。

② 身近な物の選び方、買い方、購入のために必要な情報の収集・整理、環境に配慮した生活

商品として用意した5種類の条件の異なるトイレットペーパーから、身に付けた知識を基に自分や家族が使うための物を選択した。その際、持ち上げて重さを体感したり、手で押して柔らかさを確かめたり、顔を近づけて香りをかいだりして比較、検討していた(次頁写真1・2)。また、タブレット端末に配信したパッケージの写真と値段から、デザインや品質表示、マークを確認し、特徴をワークシートにまとめていた(次頁写真3)。その後、班の友達から質問やアドバイス、コメントをもらう時間を設け、友達と話し合った後に商品を選び直してもよいこととした。学級の児童は、商品を選ぶ際、平均で4.8個の視点(資料3)を考慮して選んでい

【資料2 4コマ漫画】



ることがワークシートの記述から分かった。A児は「再生紙・日本製→環境にやさしい、長さ→交換回数が少ない、香り」の四つの視点を用いて選んだ。話し合いの後には「災害の時に、コンパクトさと長さ、どちらを重視するとよいか迷う。芯が災害時に役に立つかもしれない」と記述し、考えが広がった様子が見られた。また、A児の班では、A児が環境について話したことで「もう一度商品を見てもいいですか」と、商品についている環境に関するマークを探す姿が見られた。B児は「量→交換の手間が減る、値段の安さ、無香料、無着色」の四つの視点を用いて商品Cを選んだ。B児の班は、商品C（無香料・やわらかい）と商品D（香りあり・商品Cよりも1mあたりの値段が少し安い）を選ぶ児童が2名ずつおり、それぞれが商品を選んだ理由を話した後、各商品の1mあたりの値段を分担して計算し、確かめていた。B児は家族が香りを好まないことについて話し、班の友達は「香りが苦手な人って最近多いらしいよ」「選び方には個人差があるよね」と答えていた。話し合い後、B児は「班の人と話してみたけど、私の意識は変わりませんでした。（商品Cは）他のよりまあまあ安いし…香りも苦手なので私は商品Cがよいと思いました」と記述した。学級全体でも、友達が示した視点を加えて考え直し、考えが深まる様子が見られたり、周りとの対話から、自分の考えに自信を深めたりする様子が多く見られた。また、「人によって考え方に違いがあることが分かった」など、話し合いをすることのよさに気付いた児童もいた。

【資料3 学級全体で出た選ぶ際の視点→その理由】

軽さ→持ち運びしやすい
 柔らかさ→質がいい・使い心地がいい
 個数→ストック場所の広さ
 香り・ダブル/シングル→家族の好み
 無着色→安全 家族の人数
 柄がついている→気分が上がる
 日本製→安全・安心、輸送コスト
 消臭→災害時に役立つ
 ペーパーの芯→別の物に活用できる
 長さ→買い出しや付け替えの手間が減る・長さあたりの値段
 値段→1商品あたり、1巻あたり、長さあたりで考えて
 再生紙マーク→環境に配慮している
 防災(災害時)→1巻が多い方がいい
 普段使っている物に似ている



【写真1・2 比較、検討する様子】



【写真3 商品の特徴をまとめる様子】

(3) 手だて2 自身の成長に気付き、自己有用感を感じられる振り返り

課題解決するための活動を通して、さまざまな人と対話し、共に考え、学び合ったことを確認した。保護者にも学習の様子を伝え、ワークシートへコメントをもらえるように依頼した。そして、自分で設定した学習課題が解決できたか、知識及び技能を身に付けることができたかという視点を提示して振り返った。A児は、環境について班の友達と対話したことが印象深かったようで、「環境にやさしく、安いものを購入できるようになりたい」と家庭科ノートに記述した。また、A児の保護者は資料4のようにコメントしており、家庭でも学習について話したことがうかがえた。A児は友達や家族との対話を通して、環境という視点から自分なりの考えをもつことができた。家庭科ノートにすらすらと振り返りを書く様子は、第1時の授業で「どうせできない」とつぶやいた様子と比べ、主体的に学び、身に付けた知識及び技能を根拠として、自分の考えに自信をもつことができた姿であると考えられる。B児は、資料5のように家庭科ノートに記述し、課題(目標)を達成できたことと、学んだことを家庭生活に生かしていると振り返った。

【資料4 A児の保護者からのコメント】

おうちの方のコメント
 何気なく買っていたトイレットペーパーが
 環境の問題など、いろいろ考えることがあったので
 これからは環境に優しくコストの良いものにしようと思います。

【資料5 B児の家庭科ノート】

この学習で、気づいたことや工夫したことなど
 目標だったお金の大切さを知ることができました。今までには
 特に必要のないものを買ってしまうことが多かったけどこの
 勉強を通じて買うものをするときはいろいろ考えるようになりました。

6 研究の成果と課題

仮説に基づき、手だて1－Ⅰでは、学習課題を設定する場面を重視した。買い物の失敗経験を想起したり、保護者の思いを知ったりしたことで、児童は物や金銭の使い方や買い物の仕方について分かるようになり、できるようになりたいという願いをもった。学級全体では「お金の価値を知り、計画的にお金を大切に使おう」という学習課題を設定した。個々の学習課題からも、必要感や切実感をもって学習に取り組もうとする姿が見られた。そして、手だて1－Ⅱでは、手だて1－Ⅰで設定した学習課題を解決するための活動を行った。自分と友達の考えを対比して考えることで、自分の考えを深めたり広げたりする様子や、友達とともに試行錯誤しても納得のいく結果が出ないときには、教科書で調べたり教員に尋ねたりする姿など、対話を通して、根拠をもって自分の考えを構築しようと、主体的に学ぶ姿が見られた。A児は授業後のアンケートで「自分で決めた学習課題は達成できた」「知識は身に付いた」「友達との対話で学びが深まった」「トイレトペーパーを選ぶ学習では、学んだことを生かして選ぶことができた」と回答しており、学習に前向きに取り組めたことが分かる。B児は「自分で決めた学習課題は達成できた」「知識は身に付いた」「友達との対話で学びが深まった」と回答したが「トイレトペーパーを選ぶ学習では、学んだことを生かして選ぶことができたか」の問いには「少しできた」と回答した。友達と対話することのよさに気づき、学習課題を解決することで知識及び技能を身に付けることはできたが、知識を活用する経験は十分でないと感じていることが分かった。学級全体では「自分で決めた学習課題は達成できたか」の問いに、95%が「できた・大体できた」と回答した。『物やお金の使い方』『買い物のしかた』『環境に配慮した生活』についての知識は身に付いたか」の問いにも、96%が「できた・大体できた」と回答していることから、自身の成長を実感している様子が見える。よって手だて1は有効であったといえる。

手だて2において、A児は、自分の考えに自信をもち、積極的に振り返りの活動に取り組むことができた。B児は、できるようになった自分を認め、学習したことを家庭生活で活用していると家庭科ノートに記述することができた。学級全体でも、学んだことを今後の家庭生活に生かそうとする姿が多く見られた。アンケートの「学んだことを生かして、家庭生活をよりよくしようと思っている」の問いにも、86%が「思う・まあそう思う」と答えた。保護者からのコメントには児童の思いに寄り添い、学習活動を褒めたり認めたりするものも多くあり、児童の自己有用感を高めることにつながった。よって、手だて2は有効であったといえる。改めて、家庭と連携を図ることの大切さを感じた。

学習後の社会見学では、小遣いを使って買い物をする活動を取り入れた。見学場所でしか食べられない物を調べたり、予算内で2つ買ったりする姿が見られた。班活動がスムーズに進むよう友達と同じ店で買う選択をする児童や、食物アレルギーのある友達に配慮する児童もいた。当日は寒く降雪があったことから、児童から「体調が心配なので、買うものを変更してよいか」と申し出があった。購入に必要な情報を活用し、物の選び方や買い方を考え工夫する姿や、自分にとって最適な買い物をしようと、主体的・対話的に活動する姿が見られ、研究の成果を感じることができた。しかし、日常生活において、どのように学んだ知識及び技能を活用しているのかを十分に見取れなかったことと、持続可能な社会の構築に向けて身近な環境について考え、工夫するための活動を十分に計画できなかったことが課題として残った。今後は、どの題材においても本研究で講じた手だてが有効であるのか検証し、児童が学んだ知識及び技能を活用し、よりよい家庭生活を送る力が身に付けられるよう、研究を重ねていきたい。

【参考文献】「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 家庭編」文部科学省（2018）
「月刊 初等教育資料 2026年2月号」 株式会社 東洋館出版社（2026）